歌舞伎

芝狭吉如子連

亭海院中宮亮

二

[illegible]

歌狩 通宗卿 或任平大貳家歌合
女子達歌合 寛徳三年三月十九日
於七条亭

題

春駒　楊

萩　月

京　祝

歌人

左　子規

右　[illegible]

判者　左大辨通俊　或通宗朝臣

[illegible]

一番　素謡　　阿闍梨

九　緑

[illegible]

太

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二番　猩々

九　緑

[illegible]

太

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三番　時雨

九　緑

[illegible]

右

正月あけの空のなかめやるかすみの
たえまのそらのうぐいすやなくなるこえ
ゆうぐれのやまのあなたにいとはるの
ゆくへもしらぬかすみかな
ちりもはてぬはなのいさかりのこの
ゆうべは見せぬなごりおしみて
と郭公をあるぬんのそれせぬといふこゝろ
ゆうぐれのやまの梅ゆえこゝにさきのこりたれせぬえ
をそなたのゆうべかな

正部　おなじ

四番　水鶯

左　　義人女

ふんもちあさ山寺のまさきの戸をあけたてくいくあれをわたる
　　中務　令下女

右　勝

月のうたまさきの板戸とあるとあるうぐいす
おなじ月のうたまさきの戸をあけたてくいくあれをわたる
うぐいすのこゑをよそにまきの戸をあけたてくいくあれをわたる
ねといひなれてくいくあれをわたる
まきの戸をあけたてくいくあれをわたる
うぐいすのこゑ

正番　萩

左　　備前助　一品宮御乳母

あさ萩をさく野にとふるつゆをおもみ
　　阿闍梨

左　勝

もゝくさのおなじ野をとてふれをいまそ萩原錦をわかる
たえまかとみもつゝひいとてつゆをおもみたるとい
ふもゝ後いまもいまゝをいひつゝたるすなれた
めつゝけるゝ右のこゑのあるれおなじ野をとといふ

[illegible]

六番　月

左　[illegible]　　[illegible]

[illegible]

右

[illegible]人のもろもろの月乃入ぬるを待やまのをいはもひやもろもろ[illegible]

[illegible]の[illegible]ぬるかくのといつふちと[illegible]と月のか

[illegible]くて[illegible]ん[illegible]もろもろの月乃

入といふすいちさん人のよまふをこそよんあるを又[illegible]

やまのをといふまいはいんこそ月をまもるあ山乃月まさ

むるいいて待んたこまちとやこ乃をこそたろ

[illegible]といふをこそをおもひよこそよるやふいん乃

[illegible]むあまちよまちとこそ乃をこそひろ[illegible]

あり[illegible]ん

[illegible]

[illegible]ぬるもろ

七番　雪

左　[illegible]　　[illegible]

[illegible]

右

山[illegible]

たゝ雲ハ赤ようハ毛にさんもとくゝ雪ふれをといつゝこそ
雪とふる影をとゝまんもちもれとうゝねゝてゝたゝ
えゝゝゝといつる雲を先をてゝ打ゝ雪ハもゝくゝをいふ
てゝ紙ゝゝゝほゝそゝゝといいゝいつゝ色ゝゝんあまゝてゝ
あゝをいつるやあゝゝんかやうゝゝゝハ清ゝ雲なゝゝや入色
ゝゝんひゝゝゝ雲ゝゝゝゝいひふれゝゝ
山河乃あゝゝゝゝゝゝみの夜ゝはゝゝぬゝゝいて
ゝゝゝん

八番　雪

十　後

ゝゝゝゝ記の苔ノ紙ゝの色も雪ふれゝ花の紙ゝをゝゝゝゝゝゝゝゝ

阿周梨

大

あゝゝ戸河を夜て雪ゝゝうゝ見雪ハまゝゝゝたゝふゝふれゝゝゝゝゝゝ

たの雪ゝゝゝゝゝて打ゝ雪ふれと花の雪古ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

十番　祝

左　猪

[illegible]代は[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

高陽院七首歌合　寛治八年

題　櫻　時鳥　月　雪　祝

作者

左

大殿中納言君

四条宮筑前君　康資王母

周防内侍

右大臣家讃岐君

一宮紀伊君

右

藤中納言通俊

江中納言匡房

顕綱朝臣

正家朝臣

行家朝臣

信濃君
奇院攝津君
講師

左

右大辨基經朝臣
判者
帥大納言經信卿

頼經朝臣
左京權大夫俊頼朝臣

右

右中辨宗忠朝臣

一番　櫻

左　勝　大殿中納言君

山さくらあかりかすみたちそめてはるのあけぼのなんいとをかしき

右　中納言通俊

春風を吹かしとられぬ櫻ゆゑ　ぬれまなすなる雨ぞ降りける

二番

左　持　四条大納言君

詞　くれなゐのうすもぬ櫻あかりかすみたちそめてやはるのあけぼの

右　江中納言匡房

白雲かとのみ見ゆるかな三吉野のよしの山の花盛りに

[illegible]

三番

左　勝

山桜はしむらの幾[illegible]

右

[illegible]

関防内侍

頭巾名

右大臣家[illegible]君

[illegible]

[illegible]

[illegible]

詞

右　行家卿

[illegible]

六番

左　伝源君

尋来るかたもたるく山桜今こそ咲けさうりなりまち

右　勝　頼經卿

山桜ゆりてさうりに風ふきわたれ雲もとめ侯へ[illegible]

[illegible]

の雅よりはいかにとゆうめくに[illegible]

[illegible]

七番

左　持　斉院摂津君

ちりとはりり[illegible]

右　金　右京権大夫俊成

山桜咲てめしうるを久堅れ雲井よりあり[illegible]

[illegible]

一番

左　郭公　中納言君

[illegible]

右勝　通俊卿方

二番

左勝　親業君

右　匡房卿方

三番

左勝　関白内侍

右　頭弁朝臣

[illegible]

四番

左勝　　讃岐君

[illegible]

右　　正家朝臣

[illegible]

五番

左勝　　紀伊君

[illegible]

右　　行家

時鳥とをたもてよの音羽山ふるれはそらに雲ぬ
[illegible]
[illegible]

六番

左勝　　信濃君

[illegible]

右　　頼經朝臣

[illegible]

七番

[illegible]

左勝　　摂津君

[illegible]　　俊頼朝臣

右

[illegible]

左の歌は今すこしやさしくはべらん

一番　月　　中納言君

左　持

くもりなき秋の雲のよそまで照る月をいかにと見るらん

右　　通俊朝臣

月みるといふ題は歌の心ばへ肝要なり

たゞ月をのみ詠ずるばかりにて

ひとつの事又なきにはあらねど

たゞうち中納言の詠ずるは月をのみ

しかるべきとぞ思ひ侍る

とのやうなるをば行きうんなりとぞ申侍りし

歌枕などの時は常にあることを

とゝ云ふ所の歌いとをかしくもよみ侍るべし

ことばのつゞけ方などもしかるべき

歌いとをかしくもえ詠ずまじ

へきことゝしうは例なきことゝ

うはかゝる時はあるべき

らもあり

二番　　親房君

左　　左勝

君なくて花ぞ春とも思はぬ新の代にぞ逢ひける

右　　匡房

詞　　右

逢坂の関の板東下りして月ぞ春をば待ちあへる

右所ハ君みつかれ所とよの海ときく来る
すもりんれうまれるあれハ来の代いさりやよま
もんちゝめ代代くれいつゝはあまち久しう
ゝゝ思ひ出ハ右所ハ東下時てとゝ月ハ
入てなゝんまつ紀よとれちといもむこと
ゝゝくなんさひあるとゝあらしはさとゝ
ひへやさゝもしれあゝのとなとゝいたくれん
とゝゝあゝもハ右後ゝや

三番

尤勝　　同陸奥侍

菊動　　豊さゝもとみつされ山乃月新ハむらゝ花よ天乃下うゝ

右　　顕綱名所

宮殿乃神ハ樊もろうひまるゝ鶴と緑の新月

右所宮殿の神ハ樊もろうひよりあもと寄ゝ鶴緑
乃神まやゝゝんさゝゝハ山ゝ球いえわゝさゝとと
ゝゝいひつゝあゝれ月まハえわゝ行ゝとやハゝ
ん月のあゝ紀のゝれ月ゝなゝとゝゝさゝと
みゝめさゝゝ月ハ泥紙よゝあもあれゝ神とさ
やハいひゝ化ゝ花ゝさゝむとゝゝあゝまハハゝの後ゝや

四番

尤勝　　讃岐

鶴乃衆ハハゝなゝゝ花ゝ成ゝあゝゝゝゝゝゝ月ハ出ゝ

右　　西家

ゝ紀ゝ山下衆乃嶽ハ数ゝゝゝ新ゝゝゝゝゝ鶴のゝ月
ハ色ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝハハ山ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

はいうなるあれめうらんとうたてまつる侍り

五番

左　勝　紀伊

金　かつらゝ山みねゝ出る月なれとこゝろ清き

右　行家

水なりて人すむ月やうつるらん　たゝ人すむ月やかゝ侍るいうのれもとめやたの

侍るや

六番

左　持　伝説

墨なすさ出れうてゝ乃ゝけるに　たそゝ侍る物の秋分

右　頼綱

秋乃夜の月よんのひとそなれいたる侍ると入をもひとし

左右歌さたされあれみしたる称ハ侍るやとへうらん

七番

左　持津

照月の光侍しめ　ゆれる物乃水まを侍るくゝ

右　勝　俊頼

山乃端より雲の衣をぬきすてゝむらゝや月の光るらん

たゝ侍るるや

一番　雪

左　持　中納言

岩代乃ひとゝ侍る松よりゝ雪ハ来ゝけるとやなるんとこゝろ

右　通俊卿

十　とゝなへて山乃しゝ雪侍れとゝもゝさハらゝれる花乃ゝ

たゝ侍るくゝ雨ゝ侍ゝうくゝ侍るや

二番　　紙花

左　新撰摘　ゆみけう殿の位さん行きの氷乃うへよ雪もとなきこ雪

右　勝　　匠房卿

新古　ゆ将軍ハ月ゆうう雪ようりもとて名ゐとりみてとゐ雪ゆ

左方名ゐ雪みてけうれいつてとゐ人こて姫ゐゐめ名

のんゐもちゆゐこ又位さん抑きれハ位を抑ゐもち

ゐやゐゐく抑花とゐゐ雪をあゐみ雪ゐとこを

みゐもとゐ雪ゆれハよゐもとゐもち雪ゆりよ

雪うれとゐてゐもとゐ名ゐよゐれ名ゐもゐゐ雪

ゐやゐゐんこれゐ雪ゐ氷雪ゐゐこそれゐ雪れ

雪ゐゐもとゐゐゐゐゐゐ抑ゐゐん

三番　　周防内侍

左　雪をみゐゐゐゐゐゐてゐゐゐゐ白雪ゐゐゐれみゐん

右　勝　　顕綱

千　外ゐゐゐ雪の下雪をゐゐ雪ゐ雪ゐ雪ゐ雪ゐ雪ゐ雪ゐ

左方ゐ白雪ゐゐゐゐゐれゐ雪ゐ雪ゐ雪ゐ雪ゐ雪ゐ

雪ゐ白雪ゐゐゐゐゐ雪ゐゐゐゐゐゐゐゐ

雪ん

四番　　慶政

左　ゐゐゐゐゐゐゐゐ雪乃ゐみゐゐゐゐゐゐ雪ゐ雪ゐ雪ゐ雪ゐ

右　勝　　匠家

旅人乃ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

左方ゐ雪ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

とをひてよ海とゐるやそれをさいそれてきこ
分勝ぬさらいたゐ乃揚ゐや

五番　紀伊
尼　持
續千　天乃原空かゝくしとし深雪にふりてそやとこ三吉野の山
右　竹家
雪ふれと野原をもりをかくたゝ分れはこゝたゝ分れ
たゝ分こひてそやもと神をひ乃森れいの間ゝ
やゆゝしんたゝやの下ねと雪をはんてゝ分れをみてね
ゝ勝ゐ一ほとるゐや

六番　信濃
尼　勝
きをれ岩乃ゆきをみゝぬまて天さゝ雪をゝ分愛はまり

右　頼綱
秋をよゝこれ滝風さしゝくてゝたゝこ山ふ雪ゝりまり
たゝ分揚ゐや

七番　摂津
尼　勝
金葉　ゝ乃雪に秋の玉ゝ系ゝこうみもてたゝるゝもみゝぬこ海の山
右　俊頼
嶋ゝ雪ゝ谷のかけゝゝ理のれゝ積て名れ山ゝ分ゐりまゝ
たの方いれ打ゝ分ゐ揚ゐや

一番　祝　中納云
尼　持
君ゝ代ゝ方代まてゝよゝ分ゝ三ゝ名れ山乃神の恵こに
右　遍俊

君の代はいはまくもあやにかしこしとうたいそめしは
たかさごのうたの作とかきあれはやかてわか
ばうち

二番

左　紀伊

君の代をまつの枝のかをそとはうすくて濃くの御をれそ
右勝　匡房

詞　君の代はいかりをわくる三笠山岩の苔はさくむかきりをも
たかはそをるかはのうちもやはらんたちの袖

三番

左　周防内侍

君の代をあしたの山はとしをへてかさねんとのみ
右勝　野絮

新千　君の代はかりをれ袖のさそれはいとねのひよなかきたりをと
たかをはをそしてをんのつを

四番

左　持　贊岐

万代はいのりをはこむ君の代を山田の原に下はこをねり
右　西家

君の代をかのひてをる紀春日山三笠の松の枝をつかまつて
左方万代はかりをそ又君の代はをたりをいをはう
んはをやりへうらん

五番

左　持　紀伊

新古　万代をかの尾山の陰をまつ君はそいのりをは盤かきをん
右　竹家

新勅
天下久しきを代のちぎりあり三笠の山の榊葉を伊勢
六番
左 勝 伝源
万代を又万代とあふぎこそ祈なるべしてちぎるを嬉しき
右 頼綱
ちはやぶるかみのいさめをかしこしと君の代をこそ万代とは
七番
左 持 摂津
千代ちよとさかえ君にまもるらん三笠山榊葉の色をかぎりに
右 俊頼
千載
ちはやぶるかみのいさめを思へ八十宇治川のつかの数も
右三番判ども詞不見後人被勘ぶべし

中納言 勝一 持三 員一 通俊 勝一 持三 員一
筑前君 勝一 持一 員三 匡房 勝三 持一 員一
周防内侍 勝三 員二 顕綱 勝二 員三
讃岐 勝三 持一 員一 正家 勝一 持二 員二
紀伊 勝三 持二 行家 勝五 持二 員三
信濃 勝三 持一 員一 頼綱 勝一 持一 員二
摂津 勝二 持二 員一 俊頼 勝一 持一 員三

中宮亮重家朝臣家哥合　永万二年

題　花　郭公　月　雪　恋

作者

左方

中納言実国

別當隆季

宰相中將宗家

左大辨雅頼

中宮亮実守

右方

小侍從　太皇太后宮女房侍従

三河　二条院内侍

辨　殿下女房

左京大夫　同上

兵庫頭教政

右京権大夫師光
おなじ後白河法皇
信濃守廣
右兵衛督隆信
僧都聖
寂念 為業入道
生西 為真入道
賀茂政平 片岡宿禰
僧俊恵

右京大夫廣綱 後成の事也
左兵衛佐重衡
おなじ右兵衛督
右少弁定長 後隆
中宮大夫兼保
西遊 氣仙入道
右兵衛尉成仲
阿波掃部頭心覚

別当右京大夫廣綱

一番 右
左 持
をちこちの風をみるに糸さくらをりてふるまてあるらんも哉
右
今あらしはさくらの花又もあらしをもとくれてひとはいまはの
花ををちこちの糸櫻をりてはひとりかくめつ
らしくはなの花をのこさはいつるまてはうつ
くしとさくらの花末のはやあまりなるむさしのふし
きくのとをもとくまてのこりをはなをうら
ゑまはいかにはかりさ春のれとはひ也雖ゆいなくはい
はのをとをあるはめてをくはるのをこの一日やを
をんはいふをやをさはるは但毫乃さをとりく也
仍為

中納言実国
左 持
をちこちの風をみるに糸さくらをりてふるまてあるらんも哉
右
小侍従

二番

九 秋

おくらいそ〳〵乃浦のもゝゆふハ花ちるさとのとゝめあり富

太

花ちる波おりつるまさゝゆむさゝらあのりとゝそゝきみうゝハせめ

九 風神ハ遊玄洞氣水元信但一花とゝ〳〵あるんたゝ

ゆふまとゝむハつゝ乃事なれとあるんようせくる河ハ

海河とひさゆゝとかけつふそゝると風一ろともいつるや

ゝ一まてさゝゆゝ〳〵むむちゝさと乃とゝをあゝハいそ

〳〵乃あゝこのもゝゆふなゝ〳〵ゝもや伯へゝゝんたふゝこ

ゝもをとゝくひさゝせらふそゝうちゝようのいせのゝそや

をゝ乃ゝゝハ山ちゝく高のといふゝ一ゝゝふゝるに

花ちゝふにゝゝ海ゝ一ゝゝとゝつゝゝゝゝふゝ一ゝゝを

別當隆季

三河

こ乃ゝゝハ花ちゝ波おゝつゝゝむてゝゝむを思ふ

ふハふゝ〳〵ん〳〵やゝとゝゆゝん来ゝゝゝんゝゝハせめを

いひをゝてゝらふゝゝゝる乃ゝ修情ゝゝゝゝやゝんゝゝ

ゝゝ乃ゝゝゝゆふハゝゝのゝゝゝたをまゝゝてゝや

三番

九

裏ハたゝむゝゝゝゝ乃山ゝゝふんをゝんゝちゝ一ほふゝ郭

太 緣

雜

一ゝゝゝゝふゝゝゝのゝゝらゝ岩ハちゝゆくむゝゝをゝゝゝ

九ゝゝ乃ゝゝ海ハゝゝ一ゝく伯ゝ波ゝゝゝゝゝゝもの山ゝ

ゝゝゝをゝゝ事ゝゝゝゝ世乃ゝゝ人ゝゝんゝゝゝゝ一

一ゝゝゝゝゝゝ

左大辨雅頼

[illegible]

右京大夫

[illegible]

右

[illegible]

中宮亮京極為兼

[illegible]

左

[illegible]

兵庫頭頼政

[illegible]

中宮亮

[illegible]

[illegible]

六番

たね

[illegible]

右

[illegible]

右京権大夫師光

新勅

櫻さかりの一とせすぎてもあてやかなるうぐ
ひすの鳴をきくにつけてもふるさとの花をこ
ひつゝ春をくらすちりぬれとゝ櫻乃さかりは
雪ハもてなしいとゝ[illegible]くこゝろ[illegible]
あゝ秋とゝ[illegible]のひとせはふるもなをこひし
まるさ海よて花と思ふんもふく侍めりこゝ
も乃白のをゝ乃文字ありこゝとゝ[illegible]
ゝ合よとゝとせやうよ[illegible]侍るあゝ[illegible]
きとゝ[illegible]ふるよこゝ[illegible]

七番

たね

[illegible]

右

おかの[illegible]

[illegible]

新古今後撰

[illegible]せいのとふ白ふさハ見ても
たをの枝はなつといるもそこあるくもを見ぬたに
ちくも雨さ井よ見んぬる瀧のたゝ糸ちんといるハ
ちくくこそ絶をとあれハ枝を落をといるれハ梢ち
よるハ瀧やいあるむとそなはぬるたをのハふるやふる雨
ハさをそうのうけきと花乃んやあふいそくらんといる
心興ひいてそれそくいとあるくあるふたまふるを雨の
白乃をハ見をまるとまるをとをそうたるぬ
ちちをれいそれをハ又おるそ

八番

たを

たをのおの通能為作

右勝

たをのおの通能為作

ををへてれるもよをまるむあるハいくへいそれをまる
伊勢みを方

九番

たを

ををハやう雨をまて雨と恨むんのをさを花をおつうる
右勝

お中勢が物語能為作

ををハやう雨をまて雨と恨むんのをさを花をおつうる
右勝 藤原隆信

のををへて[illegible]にくをんをあいれとやを白ひとをへて雨ををさをうん
たを雨をのう勢のうをむまてをさをもををりつく
しをうん事いうをうをうる事をまるをうをとをへく
んをををくをををれをををて白ひををんをを花乃芳ん孫の

かうやあるおもひのあるふ花をゝゝ
つゝのうもひあるのうもちゝてゝいまゝゝを
をとやおもふゆゝさんとをわたゝゝむ花ゝわを
ゝゝひゝてゝゝゝゝゝんはまゝうゝゝゝまゝゝゝを
面て白ひをゝゝてといるゝての宮おれゝゝゝ
とゝんもしハ狂おをゝゝゝそ

十番

九おお　　おお納言資隆

をゝゝやゝゝのゝゝゝゝあゝゝゝゝゝ

たゝの花乃ちるをなんといふこゝろをもを
おもふゆへのことゝとゝとゝ乃ちるひとるゝ
なるれやまちうと紅人の右をも花あれとたつゝ入
ゝうつゝ乃事ある紅葉をもとゝ鞭とあきて
ゝるなんことあまりふうこくやあゝむたゝのなるく
ゝ乃もとゝ八とまゝぬゝのたゝと恩と弃ゝ乃ゝ
入ゝゝあゝゝ八といるゝゝゝとゆゝゝゝんゝ
ゝ八猫花をといるゝもいゝつゝてゝゆゝ
以右為勝

十二番

たゝ　右

手蔵

ちゝゝゝやゝゝゝゝ乃山の景ゝゝゝ

西経

ゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十四番

九　　阿闍梨心覚

[illegible]野山花のさかりとはいへどせばきまの白ふさぬきかな

右　持　　信俊恵

みよしのゝ[illegible]花ぬきかな[illegible]

九の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二番　左　橘　藤原隆季

いろかへぬいろをしるしるとふる雪はいつのまにかはなのかをそまさる

右　三河

[illegible]

三番　左　橘　宰相中将宗家

夕されはくもゐのかりのこえはかりなれしたのみかはの

右　鶴

四番　左　右大弁雅孝

郭公なくてはつかりのこえはまちぬあるをたのみてはつかりの

右　右京大夫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四番　左　右大弁雅孝

郭公なくてはつかりのこえはまちぬあるをたのみてはつかりの

右　右京大夫

[illegible]

[illegible]

あらあらまほしあんとて秦女野客乃をくひあら
そはるこ乃あらもあらしくやあらむさきたハ雅こま
もや太まとろむちとふ爰のかとをくあんといろ
わらくハはるをこの夢乃りわろさきなれく
もおりふたまへらふよ沈夢あらハ縁結なん歯ハ
おほつるをれハ爰見之別者皆おとこて

五番

九 縁

宣旨勅使

さそふ風よりてあくはるあるあるをあらハさそゆれ

太

新政

郭公さそてもいくくるるハあて花まつあるるくら
九の夢ふほれてるくなといるかとあくくやるる
とあらいふあれをなるるくんとそあらゆしと和

六番

九 初

紅盛勅使

れるくさそあく孫をまよるるる孫といや孫くさん地そそれ

太

師光

あくひさ乃山ちる出る郭公くるるひるるて家中ふるけ
ぜ九太れれるくさそれ孫ハかくくるといるるる
九太乃るるひるるて家中ふるけいるひるれて

はの色れハねとすゆ

七番

左

ちくらあしハあるよちらてる紅葉あつまるかさ乃山ゆきをとをけ

公重卿

右 持

時雨まつハさらふ思ひそらるあつもれ〳〵まぬ

右 勝

乃ゆ〳〵きはてしまハ見ぬるとまれよちらてといる

ねとくちるこたちゆ人さ事うやハとさる西赤の白もん

さくぬちちやちらむ太ち乃あらどれ〳〵さめ

やあまちちんとの色れとまつハさらふありハ

ちちちといるるちらくさる西れう〳〵よたハ

ちけとちちいる雲たち太ハよくさけら紅あれと

右まとちるこちうの

十一

八番

左 勝

通純卿

ゆ紅くさらふあらハとまるねとちとある雲乃ちつ〳〵さこれ

右

まちち房

紅てちちふくさむしてちを時雨ふるつるあて春さ〳〵見て〳〵さ

左 雲乃ちある宣のちと〳〵いるちちあり〳〵く見西あし

ちれ宮をちあつるあれとつる紅ちてかしひてきこ

ゆれとさくハあしちちやあらむ太ち雲ハちちさ出る夜

ハといるれとこのちうあしたの色れハたの勝あ

丸番

左 勝

重經卿

知とくさ紅さこちまこちあしあ〳〵一たひも名ちあるふ

右

隆信

郭公ひとこゑなきて一あさ
ハゆくるをふるえやいなるふる
乃歌ときこゑ初めつゝくハぬのをとさこうまこふ
きこといいたらまほしたるゝり三二京三三ふ
やあらんを歌ハくふさもあらるすあらあらめ名
のるるかをそなれ一事ゝやぬのを太未乃白ハよ
ろしく又のるを乗こ後まこのるをといるふそ
やきこのあり一あるれとぬまうゝてんち
そあゝふんのこんハをさうとをん

十番

左 藤原

ひとゝめて山を歌をれハをもちをれ乃あをやをこ
右 藤昭

郭公ひまらこ山乃一あいこくふつをてもうゝりこ
をを
乃をうををめてをいつるをちをれあをちをれのをを
ををゝまゝをいとあゝくぬのをりをぬをちいれ
乃ををろやををみををこんを三をまちを山の一詳
きくをつをてもうゝめゝをといれ女乃三をとをて
てゆうをハぬのをるをとまをぬをるをるをちをれハ
れをををちをれををまをとゝをををををををを

十一番

左 為

為をこハをあひ乃罍の杯ををををををををををん
右 教盛

いをのをを山をあをを方をを郭公あをぬんをかはををををを
ををあををこハををををををををををををををを
ををひあゝくをんをを右ハをををををををををを

いろ紙述懐乃哥ゝ作者よあひ
うるわくさくもるうん拾とゝて

十二番

左 拾

西極

手枕ちかくとゝ乃うるとの西ひゝいさちゆく春てまつハゝのきろ

右

生西

ちまゝん西をゝへよ四るゝ春よゆふたゝまくとゝさくへ色
左乃哥作者森乃きのひゝハをとうことめをてゝゆる
ゝ春ゆく春そとゝ乃ゝ拾とゝやゝるゝうゝふゝも
さゝゝさゝゝむ左の哥ハゝ乃ゝ春ゝ又もさくゝてゝと
をとあまわたゝうゝるゝやうゝうそゝさゝゝるゝしとゝをゝめ
ゝゝわゝゝゝとゝ哥よいひくゝて拾つゝくゝゝ四たを
ゝゝちこゝハゝれゝと哥集をゝふゝもいゝるゝとゝゝれハ行を

拾をおゝるゝゝてゝふゝも又拾とゝを

十三番

左 拾

成仲 雀孫

はゝよゝ春ゝもゝあつゝゝゝゝゝれよ新いまゝ紀のやゝ乃ゝ乃ゝ哥の歌哥

右

政平

う乃ゝもの恋ゝよゝゝゝゝゝ

おとゝやとゝ

十三番

左おな

手枕とはゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　心えん

右　俊恵

いてゝそいつくちふあれはるをとゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

左　歌枕とゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　

二番　　別當

左　　三河

[illegible]

右

[illegible]

三番

左　　宰相中將

[illegible]

四番

左　　左大辨

千載

[illegible]

右

[illegible]

雜

[illegible]

左大辨

[illegible]

左京大夫

[illegible]

太一条殿御山の月を秋ちかくといつる程詠月哥と
題西行とともにめつらしきところあるふと哥合の
二条とのゝたちの仍為和平

五番

左 お

いてそふる月をそこのそふるくてに月見る秋の数とかさねむ

右

月新よりつもれぬるやおもはんにまふるくてに人の宿人

左 不錯文花偏金蓮宮こゝにさる事をやの西
右 うつもれぬるやおもはんをいつるとそいひ
あふくんをおくしくるつもりとんやもこ
芸源ちんの越のふところやめれそのふまて宮
て宮はあらめとそこあてちりとさいんす

そいてさふとおれはあまりのこゝふをあるむあを
河をとそこにくるを月をのるんあるたおつるを
ところもあふとそこあるくれはもまたおるに

六番

左 勝

ちんあくふよりの清月ふてう月とふく

右

秋の夜八月の山ちやのるとぬるんあるの海へゆくちろふ
ちんおれなふ月ゆふとわてたを浪ちろふ
てる月をふくといるをいとをふ月西六
見も二条をいるくをるを月のふま
やのつとぬるんとたるいあるくをるを月のふま
しいをふ月をむ海ゆふの浦まてはふくるのをの海

[illegible]

七番

左　公定卿

[illegible]

右　行　秋補

[illegible]

八番

左　通能卿

[illegible]

右　[illegible]房

[illegible]

九番

左　雪信卿

[illegible]

右　隆信

[illegible]

たゝ月のあるうちにふきちく末五歌後拾遺の時風
よあらしの乃やうにてひらもあめむ拾遺の
月ふるといふなのやあらんたゝ風よりのふをさきに
てといふをたゝ八まりてのふもいふとそしたう
らくをあや彩のさやうにてあるや思ひに
あるふちにそんたゝ八まりたゝこうらうるや
仍又ゆ名

十番

たゝ　　資隆

ちるのかる月しやうしハあるふをうらみちくるふかをつらあふる名

右　　新昭

寅しをうくりちひてやをあらんをうる月ハちろよ
たゝうこ雑をふへをうあちく寄合乃うとをしうり

右ふのんいとおしゝ但拾遺をうゆきちろんうと
ちつるぬんちやをうむをくけをひのこうゝ
おりくちふといふこのゝをうれをしこの比の寄
乃おりしたこあふるやあらんそれをもちしに
やうやうよりうやあくはゝ下の白乃ころハ
こうる月ハんをといふををこんをうをちそ
をふとあるひよすあるかとなをあれハあるふれん
うるうちくふもおとやんし

十一番

たゝ　　教保

こうひしををのてそハの寄をてれこをハ月のをみふをて
右　　寂念
秋のこハ寄つををへてをうゝ四つうをやまふをめる月新

左の雲乃つてゝ
くゝ〜かんとぞ西右のうゝきやゝ乃月ハ
もゝむいつゝふゝくゝ
ふゝ雲をゝへてと
ゝゝ〜とハ乃西れと
む樗末乃ちゝの月
あゝん但雲乃ちゝ
いふも月あゝんと乃西れハ又ゝて

十二番

左 猿

ゝつくゝよやまのゝ出る月みゝをいふゝをゝくゝいゝんれゝ
右 西廷

池ゝ乃ゝをふゝ紅葉のちゝをハやゝふゝ月をあゝきゝゝ

左乃月のやゝ〜みゝを出るゝゝいふゝをゝくゝいゝんれゝ
ゝをゝといゝゝあまゝゝきゝてやあゝん雲ゝまをむま
もゝ城あゝれゝをめてゝくゝゝれをゝれハ二山を
乃宮底ゝくゝ乃ゝゝん地やゝをゝむ右ハ池の底
ゝゝみゝ乃ゝゝをハといゝゝきゝゝゝみゝあゝく
ゝ雲ゝ池ゝゝ河ゝゝゝゝゝゝゝゝれをゝゝゝゝ
ゝゝやゝゝゝん又月をゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ふゝゝゝ西ゝゝゝ雲ゝハと紀ゝゝゝゝれとゝをゝ
やゝの河ハゝゝ月ゝゝゝゝゝゝゝゝ
乃ゝん入ゝゝのゝ月ゝん也ゝハ出る月城
ゝゝとゝゝゝ

十三番

左

成仲若狭

[illegible]

右 [illegible]

改平

いにしへく空よりまつる月乃月あるらハあてハ入表乃ものハおをつ
たゝ雲あるこゝろふハ見ゆ雲れとゆまの河あるゆく月ハ[illegible]
といつるまてしてよいにあるしてゆうるる事しるや
たゝ雲ハんあるてゆうしをゆ乃れ月ハ空維とめて
事こゝろあれハつまもあれハ空ゑこゝろとやあか
ゆるされと面窟浮乃空ゑと思つるあるへしゑ雲ゑ
さやうまこゝろまちゆを事あれをたとうハさも
いそゝんためつしけるれを右の縁と見えたり

十空雷

九 縁

心覚

さやゝさハひるふゝるに秋の月あるれよゆるあるゝ空ハ

右

俊憲

たゝ雲あるれをゝるあるあ月氣ハゝるゝ水つまて物をゝるのさ
あるしくさこゝ也但さやゝゝやゝゝさハひるふゝるぬとゝ
まゝるひるをさやゝゝとやハゆゝるゝむこのさや
ゝといよ河古紙よいるハ神楽乃ゝゝめゝるお
ゝふゝるゝゝゝゝ雅神の雲ゝ雲ゝゝ
河あるれ河れあれ乃ゝるあるさやけゝんとゝゝ
河也されをひるもいるひつ面さやゝうのハさゝゆれと
さやけとハ竹の系乃あゝゝあゝゝゝゝゝ河ゝ也
あゝんあるゝゝゝれゝ月の雲ゝゝとさやゝゝと
いひるゝゝゝされゝゝ也ひるハ陽氣あるゝゆゝゝ
ゝゝ河ゝくんあゝゝゝさゝゝとハあゝさゝゝや

あらんたをうハこゝろふかほつゝをゝ紀とゝろあるもん
えゝ法んもゝゝさゝゝふれもあゝゝくゝみゆふれとたハをゝ
ゝおかつゝれゝさゝゝゝゝろハゝきゝゝゝゝ月やゝゝをゝゝつ
ゝふあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝんゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

左 お

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雪ふるのおそるも雪乃山ちつめハまのくるくるなくほれよろ

新懸

雪ふる雪ハ雪乃雪ハ雪せハ雪ハ雪ハ雪

[illegible]竹いとそこともみゝ[illegible]雪をあれたるそれをもとゝして

右　　隆信

隆そめて花とはんせ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]雪乃日ゝ[illegible]

[illegible]竹雪ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]竹とけ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]竹ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

十一番

左 縁　　教保

[illegible]

右　　寂念

[illegible]

左 [illegible]

[illegible]

十二番

[illegible]

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

十二番　成仲右衛門尉

右勝

[illegible]

左

[illegible]

改平

十三番

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たゝの作智をのあまやもやまれるゝむとをそてさゝも
乃るあとをんといるもゝいとおゝ〳〵をゆゝ能
たゝのゝうれ家をとゝ〳〵暁の松をそゝてゝも義乃
うちよりあれハあられともつゝ〳〵をゝん事をそ
はよ乃事をれ義のうちよさへ俳乃ゝちをゝん夏
いゝおゝ〳〵ゆれたゝ乃うちとはへ〳〵

二番

九 猿　　別当

あちきをやひらあつゝをたゝひとて紙乃松のをゝやゝをへを

右　　三河

おゝをゝあをれゝゝへもあひみをい高〳〵をたひよ分をを姫乃
たゝのいをふまむ宝乃をいゝゝ乃ハゝれゝゝへを
あひをんひををいゝゝをゝをゝをゝをれをを九ハ猿ゝん

とゝをおりよ法へゝられゆる

三番

九 猿　　宰相中将

後撰 はるもをふ人のゝいうをぬあゝゝ〳〵さまをを思ひをゝ河

右　　雑

ゆゝをゝはれる紀へよむ〳〵をとゝ河乃ゝををいをゝん
九人のをゝいうをあをハとゝをゝれとゝをゝ〳〵く
み〳〵ゆれをを乃ゝ河をまをとゝいゝるれゝやゝをゝ
乃ゝはよゝ〳〵あをゝをゝん九いゝ乃をれ人よむ〳〵る
をゝいゝるゝとゝゝ〳〵をを河をとを乃ゝをゝふ乃
やいゝゝ乃ををゝとゝ乃ゝゝんゝゝて九の猿をに

四番

九　　九大弁

いとしらぬ恋を思ひそめしもいかなる
右 勝　　右京大夫

恋しさはそのかたがたをなぐさめて思ふにまさるこゝろ
たゞ夢のうつゝにぞ見るとあるを
うつゝにやたゞ夢のうちにかなしきを今
をこゝろおもひとゞめてとゞまるとあるを
右乃うちよりそ

五番

九　　宣旨為氏

恋とてふくんのいろをれを恋しらぬなるべし
右 勝　　教政

知るらんふるさまを恋しらぬ神をこゝろ人なり宣旨
九 四句おのゝく侍る和泉式部の歌を見こゝろ

ちゝぬくくるしとひとつとうせぬ物をあつまるを
いつふかいろをかよう人乃なを神をなといつるを
おのゝく見るにあるこゝろをまる恋夜をとやゆう
なる句ともさまくさまに菅原集にも恋夜
きなれ乃山をあるこゝろをやめふるこゝろて乃
さてをそれはめつゝふつゝて右の勝とゆへし

六番

九　　経盛為氏

あふことのみ世をねはいとしくたのん今をもはつゝぬる
右 勝　　教政

千載 恋しとゝもとゝ法ゝとゝもはひやういつ思うゝ紀ゝまゝゝん
たゞ夢あふ事乃こゝの世をゝ絲はといひてたのんいのちも
をとは恋のんをとふくゝぱ四たゞ夢ハ又姿句

いとおもしろくてうたれたる[illegible]
つゝとしおもひやるといつるもあれとも見る侍
見て以右の拍子

七番

九 拍子

[illegible]

右

いとゝよいとゝ思ひて涙ぐらるゝ意ハつゝさふるもゆるりくら
たんふるさやうに見くまんまふといつるれと
やそくあんぢやもそくむたいことなるてのけまと
見ぬそくふく優に世のうまの乃たちくらと
いつる河ありふくやと見と侍るふまことさるとくと
あるゝことあるまいくふもたのうちはこと

八番

九 拍子

[illegible]

右

をつくあふやかと思ひたに意に勇をもるまつくさうれ
九乃ものにこさまハむをゝくれてやくふくんに意と
てふのをそやあつくんといつるをこ河いとおゝく
くゝやくれ右ものもんハあゝくをあゝぬをあゝ
やうといつるれとそのあるぬるやなくんたの拍子
みくゝ

九番

九

[illegible]

いくゝのれハ意とハ彩に意ゝくあひくくことをゝ

千載　右　陽　隆信

ゆへ乃あるこゝとゝをふこゝろを見こゝあらはなるこゝ袖のうへに
たゝこのいこゝろはなれはこゝくこゝをこゝ見こゝるこゝをこゝひこゝろ事を数へ
こゝこゝんはこゝさこゝやこゝうこゝやこゝゆこゝのこゝんこゝこゝこゝこゝこゝ
ゆこゝやこゝ仍こゝ陽

十番

左　右　陽　賀隆

あこゝ袋乃こゝをこゝゆこゝこゝてこゝこゝこゝはこゝれはこゝりこゝこゝんこゝをこゝゆこゝこゝてこゝあこゝこゝこゝ
こゝこゝ　孫昭

こゝこゝこゝこゝ袋こゝこゝのこゝこゝこゝこゝこゝ

昌北山上有望夫石狀若如人立むかしの貞婦を
くりかへしのおもかげとなりてこれをたづね
てうれし山乃うゑてよたてりて夫をまちくらす此
くゑてうたとあり
おもひ出へしともおもふるとあるといふけ
よしてうめるを古まつよりいとをもたといつるをうと
ようくしのめるを来乃白やことをあくはんたの
河のよもつむしを古ぶるよりまつ松堂景雖異猶劣已

同仍為持平

十二番

九

承意八うをなつ意ふあうねともあつまぬるを れをとをとろ

太 緣

生田

ぬれを物ふをとふえをたくぬちつをつくきろひるうねい
九乃意うをなつ意ふあるとぬるをといつる意ーを
ゑあうてたくーくはるたとーのたりひたるる
ううをけをるやめるるーをあられるも はるをくるる
あるつををーん地をれとひるなくるるを はるへー婆
たる我なくーくをを はれは太緣ともへー

十二番

九

成仲宿禰

ありひうひるくをもやをこ芹つあはたるれみとふ神をぬ目ある

太 緣

敢軍

おゆへをふあうをやとなりあれをてあへををたるねを
九意乃ををーはなくーく思ひまれるをくーはるゆる我
たるくの身とをはるをつ母ところろをるとろをるひ

て伊勢まうちく四方の井戸は神あのみくあるす
あるき乃をといつる事ゝきちゝちをとれハ行
つめとといつるきゝハくりゝれと事ハあるくや　た
末乃白あとゆうよ代西ゝこのふあゝゝやといつる
いゝあゝんされとたおかつるあさ不あ里ハ太の孫と
ゆんゝゝゝわ

十三番　心ゑん

たね

いさゝ乃神あゝねとも高とれいゝるひゝゝに孫とのゝそ四

た　後恵

きぬくふあゝんさんもあさ物とゆぬと乃雅よはくゝゝん
たゝ事日本及人世事乱てゝゝゝくハ伊ゝあれと
春ゝひゝ孫とのゝくとゝんたあゝゝハるふゝゝ

ゝせゝもおかくゝみゝゝんをやんゝとゝゝき神代乃
御事ゝゝんあゝつゝたゝをや伊ゝんゝゝんたゝ事の姿
ゝゝ家おゝゝくいゆの四ゝをゝゝれゝゝゝひゝゝ孫のあ
ゝゝゝゝ乃ひゝゝゝゝゝくハ高乃んゝやゝくな
ゝゝんゝゝゝゝれとゝぬくゝゝゝてつまゝと恵
いてん事おゝと伊ゝゝのぬゝゝ乃ゝをといゝゝゝ
きふゝく高乃ゝゝよゝれゝゝゝ人まやとあゝれゝ
事乃さ海もおゝゝくゝゝゝゝゝ伊れとたゝをいゝさ
ゝ乃んのみゝとゝと伊れハいゝハをゝふハとてゝを
おゝた

左

[illegible] 従二位二員一
[illegible] 従三位二
宗[illegible] 従二位二員一
雅[illegible] 従一位三員一
[illegible] 従一位三員一
經盛 従一位三員一
[illegible] 従一位二員一
通[illegible] 従三位一員一
[illegible] 従一位三員一

右

小[illegible]
三河
[illegible]
右京大夫
[illegible]政
[illegible]光
[illegible]
[illegible]房
[illegible]

[illegible] 従一位三員一
[illegible]保 従一位三員一
[illegible] 従二位二員一
成仲 従一位二員二
[illegible] 従一位二員二

[illegible]昭
[illegible]念
[illegible]
[illegible]平
[illegible]